

地

元

密

着

通

信



Jimoto mitchaku
tsushin

各地区通信員のみなさんから届いた地元のできごとを紹介します！

あなたの地区ではどんなできごとがあったでしょう。ぜひチェックしてみてください！

大

綱木自治会

齋藤信夫通信員



大綱木地区敬老会を開催

9月8日、大綱木公民館にて、敬老者をご招待して敬老会を開催しました。主催者の大綱木婦人会長と藤原町長からあいさつをいただいた後、傘寿を迎えられた5名の方に記念品が贈呈され、長寿クラブからは金婚式を迎えられた2組のご夫婦を表彰しました。

来賓祝辞と来賓紹介の後は、踊り『黒潮節』の披露や、歌に合わせた盆踊りをしました。大綱木地区の世帯数は現在88戸と少なく半数近くが高齢世帯ですが、長寿を祝いながら老いても益々元気な地区であって欲しいと強く思いました。



歌と手拍子に合わせた盆踊りで盛り上がりました！



中

央自治会

藤野由紀子通信員



戻ってきた活気

綺麗な月夜となった10月12日、声が町内に響きました。6年ぶりに行われた合同宵祭り。各若連の神輿が列を成した姿に、昔を思い出しワクワクした気持ちに。街なか駐車場

で皆で御神酒で乾杯し、高野樹さんの和太鼓演奏で更に盛り上がり、いざ出発。今年は可愛らしい女性たちが男性たちのサポートを受けて神輿を担ぎ、華を添えてくれました。進むごとに「ワッショイ、ワッショイ！」と大きくなっていく掛け声。事務所に戻っても熱気冷めやらず、輪になって踊る若者たち。パワー溢れる一夜。



小太鼓に中高生を交え、次世代につながるお祭りに！



す

みよし自治会

村上 杣 通信員



すみよし自治会活動報告

9月14日、すみよし自治会の役員会が開かれ、春日神社例大祭、親睦旅行、自治会まつりなどについて話し合いを行いました。親睦旅行については、バスの手配の問題

などが出され、実施への具体的な動きはいったん保留となりました。また自治会まつり（バザーなど）は例年通り11月3日の祝日に東邦銀行駐車場において開催することが決まりました。会の最後に今年度から始まった空き缶回収事業について、7月と8月分の空き缶の売り上げ約700円が自治会運営費に充当されることが報告されました。



2時間近く、熱く議題について話し合いをしました！



木屋地区自治会
牛田ジョシユア昭彦 通信員



高原の秋空に豊かな音色

9月28日、『風のコンサート in とんやの郷2024』を開催しました。このコンサートでは、9

組の幅広いジャンルのアマチュアミュージシャンが演奏しました。

町内からは山木屋ゆかりの山木屋太鼓、DJ MOVE、KAWAMATA・BASEバンド、吉成秀雄バンドが出演し、素晴らしい演奏を披露しました。また、町外からも山木屋を盛り上げるため、凄腕の方々が参加してくれました。観客も幅広い年代の方が集まり、高原の涼やかな秋空に響き渡る音色と歌声と一緒に楽しみました。



入場無料で開催しました！屋外コンサートは最高です！



赤自治会
丹野 早苗 通信員



秋の研修旅行

春

日ゆうゆうサロンの福祉バス研修旅行を10月2日実施しました。13名の参加があり、伊達市『保原総合公園』を訪れ2班に分かれて研修してきました。

1班は、パークゴルフを体験しました。グラウンドゴルフの経験はあってもパークゴルフは初めてでしたが、ルールなども簡単に楽しく出来ました。2班は、旧亀岡家住宅を見学し、園内を散策しました。昼食は、桑折町の食堂で美味しかったです。帰りは『道の駅国見あつかしの郷』に寄り、それぞれ秋の味覚をお土産に購入し帰宅しました。



お天気にも恵まれました！次回も皆さんお誘い合わせで元気に参加して下さい！



沢自治会
菅野 奈美子 通信員



福沢傘寿を祝う会

9

月29日、福沢公民館にて『福沢傘寿を祝う会』を開催しました。福沢地区で傘寿を迎える方は15名になりますが、そのうち6名の方が参加くださいました。高橋自治

会長、藤原町長、高橋議長より祝辞を頂き、傘寿の記念品として『長座布団』を町長より贈呈しました。謝辞を齋藤克弘様からいただき乾杯のあと大正琴・フラダンス・子どもたちのダンス・アカペラの余興で祝う会は華やかになりました。

最後に、参加者全員がハーモニカの伴奏に合わせて『ふるさと』を歌いました。



「いつの間にか80歳！これも、ひとえに皆様のおかげ！感謝です。」と、謝辞の言葉に感動しました！



坂自治会
佐藤 秀夫 通信員



飯坂地区町政懇談会

今

年の町政懇談会のテーマは全地区統一『川俣町の人口減少対策』でした。町では令和5年3月

に策定した第6次川俣町振興計画により様々な計画に取り組んでいます。全国的に見ても人口減少は止まりません。参加者からは、町所有の土地を町内企業へ通勤する方に安価で下り宅地整備をしてみても。川俣高校に以前あった機械科、電子科に特化した運営をしてみても。町民の人口減少の危機意識の啓蒙をしてみても。といった意見がありました。皆さんで、これからも考えようではありませんか。



子ども孫世代以降も持続可能な暮らしを、未来社会に向けて私たち世代からも出来そうな事から一歩ずつ！